

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2274202148		
法人名	医療法人財団 百葉の会		
事業所名	グループホームみずあおい		
所在地	静岡市葵区北1892-8		
自己評価作成日	平成22年12月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai-go-kouhyo-shi-zuoka.jp/kai-gosi-p/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 しずおか創造ネット
所在地	静岡県静岡市葵区千代田三丁目11番43-6号
訪問調査日	平成22年12月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

湖山医療福祉グループ理念“自らが受けたいと思う医療と福祉の創造”に基づき、職員全員がご利用者を”お客様”としての対応を心掛けている。明るく開放的なフロアは、ゆったりと過ごせる空間となっている。

併設デイサービスと日常的に連携しレクリエーション等を一緒に行なうことが多い。

法人内での研修制度が充実しており、学べる職場となっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

静岡市北部の自然環境に恵まれた地域に通所・居宅事業を併せ持つ2ユニットのホームです。12月には準備段階から利用者も参加し『5周年祭』が地域の皆さんと共に盛大に実施されました。今回の外部評価にあたっては、職員が其々に自己評価を記入することで日々を振り返り 課題に気づく機会となるよう積極的に取り組みました。また新規入居者の選別はしておらず「一人ひとりのケアがすべて勉強の場」であるという高齢者介護のプロとしてのホームの姿勢は地域住民にとっても頼もしいものです。入居者と近隣からの通所サービス利用者・ボランティアとの交流も日常の中にごく普通に行われ、地域密着ならではの光景が見られました。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	リビング内に掲示することで、共有は図れており、実践に繋げるように努めている。	法人理念と共にホームの理念を大切にとらえ日々の取り組みに活かし「ぬくもりのある」日常が実践されています。また新人研修や会議においても、重ねて浸透を図る取り組みがなされています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会への加入や、年に1度の事業所の祭りを通じて地域との交流をはかっている。	5年間の働きかけの努力が実り町内会加入が実現し、「みずあおい周年祭」お誘いチラシの回覧、認知症サポーター講座3回の開催等協力関係が築かれています。祭りには地域住民の参加が多くあり交流を深める機会となりました。	交流が比較的少ない地域で 近隣の方へのアプローチが難しいようです。今後、介護相談窓口や避難場所の提供等の情報を広報する働きかけに期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター養成講座を年度3回予定し実施をすることにより、認知症について学べる場となるように努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	写真を用いて活動内容を報告し、意見を頂くことにより、サービスの向上に生かしている。	契約時や家族会で「運営推進会議」を詳しく説明し理解を図っています。運営推進会議は定期的に開催され報告・課題・地域情報等の内容で意見交換がなされています。今年から町内会副会長も加わり課題であった地域連携が一歩進みました。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	年度初めの運営推進会議への参加や、運営上の不明な点があれば市担当者へ積極的に問い合わせを行い、協力関係を築くようにしている。	運営推進会議には市担当者は年1回の参加ですが、地域包括職員が順に毎回出席しており ホームの取り組み・実情・要望を伝え、相談に応じてもらう等の良い協力関係が築かれています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内研修において、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	研修制度が充実しており色々な角度から研修を重ねることで正しく理解し身体拘束をしないケアが実践されています。職員は常に「目配り気配り」で利用者の心を捉え、利用者に対応するケアがなされていました。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内研修において、防止に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会は持っていない為、機会を設けたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にご家族へ時間をとって頂き、理解されるよう十分説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時には、ご家族の要望等を職員が積極的に聞くようにし、運営に反映できるように努めている。	前回開催された家族会では、「往診医の確保」の要望が出され、その後検討し、医師との契約が整い実現されています。所長・管理者は家族にとっても話しやすい関係ができていと感じられました。	現場のスタッフ間の情報連絡と共有が足りなかった場面があったようです。改善をお願いしたいとの家族の声がありました。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議や、部署会議において職員の意見や提案を積極的に取り入れ、反映させる為の努力をしている。	月1回5時半から全体会議、その後部署会議を開催し 運営面・現場からの意見等が積極的に話され意見交換がなされています。職員からは積極的な姿勢で各種委員会に所属し 運営に関わる一員としての自覚を感じる言葉を聞くことが出来ました。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人全体としての処遇改善(手当や休日の創設)を行っており、やりがいのある就業環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループ・法人・事業部単位での研修計画を立て実践している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の他事業所との連携を行い、2ヶ月に1度程度の勉強会を開催している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用前に職員がご本人にお話を聞く機会を作り関係づくりができるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご利用前に職員がご家族にお話を聞く機会を作り関係づくりができるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・ご家族から現状を含めた状況についてのお話を聞き、必要な場合には対応すよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は”お客様”として、暮らしを共にする関係を築くよう努力している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の面会時には、積極的に話をする事により関係づくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	関係がある場合については支援できるように努めている。	近隣からの入居者が増えたことで、日常の中で通所利用者との交流・家族の訪問・ボランティア訪問が多くあり顔なじみの交流ができています。意思の把握ができてにくい方には「誕生日企画」の支援が好評です。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビング内のテーブルやソファの位置等を工夫し、お客様同士で関わり合いのできる環境づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	お問い合わせ等を頂ければ対応するが、積極的には行えていない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員一人ひとりが、お客様の希望を聞く事に努めており、困難な場合にも会議等で検討している。	利用者の言葉や行動・表情から、また家族からは面会時や行事の来訪時に意向の把握に努めています。センター方式を活用したアセスメントでは、利用者の視点に立ち意欲を引き出すよう多面的に検討しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を用いて把握に努めている。また、インテーク時の情報を職員が把握できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員一人ひとりが、お客様の様子に注意を払い現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	常に職員が現状を把握する為の努力をしており、ご本人・ご家族へ確認をしながら介護計画を作成している。	計画作成者・利用者担当職員・看護師・ユニット職員等で、生活変化に対する気付きを大切にとらえ、現状の把握と課題について話し合い介護計画を作成しています。家族からは訪問時に(又は電話等)意向や要望を聞いています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	お客様の現状把握に必要な記録をする事により実践や介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人・ご家族に対しての柔軟な支援を行う為の努力を、職員一人ひとりが行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の祭りや、保育園等の催し物等に参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	以前からのかかりつけ医を大切にしていけるようにご家族へ説明を行い、必要に応じて支援を行っている。	原則として馴染みのかかりつけ医の受診は家族が対応しています。通所サービスと兼務の看護師が、体調に変化のある時は医師との連絡・調整をし、情報共有ができて家族、職員にとっても心強い体制があります。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	お客様に変化があった場合には、看護職員へ申し送り対応をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	必要に応じて、できる限りの情報提供をおこなっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご入居時にはご家族に終末期における事業所の方針と対応を説明しているが、かかりつけ医との話し合いはできていない。	契約時或いは入院時等で 本人・家族と終末期のあり方、重度化した場合の要望や事業所ができること、できないこと等を説明しています。終末期を支える体制作りや医療との連携に向けて 一步一步取り組んでいる現状です。	入居者の重度化は進行の現状にあります。職員の研修・医療との連携体制の構築をさらに進めることを期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習等に積極的に職員が参加している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練等を行っているが、地域との協力体制は今後の課題である。	スプリンクラーの設置が10月に完了しました。大規模な町内会主催の防災訓練はありますが、利用者の影響も考慮し参加をひかえているようです。万が一の時 短時間で駆け付けられる近隣在住の職員が多く居る心強い体制があります。	近隣の住民や家族が参加するホーム独自の防災訓練が実施されることに期待します。また今年度中のホーム内での防災訓練の実施も急ぎたいものです。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	”お客様”として、人生の先輩としての対応を心掛けている。	職員には会議・研修を通して徹底を図っています。日常の中では一人ひとりの意思を確認しながらその日の過ごし方を支援しています。大広間には通所サービスの行事予定も貼られ、その中から希望し参加することも日々の生活の彩りとなっています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お客様との会話を大切にしており、その中で希望を聞き取ったり、自己決定できるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お客様との会話を大切にしており、その中で希望を聞き取ったり、自己決定できるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節や天候に合わせた身だしなみができるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お客様の状況を考慮した上で、準備や片付けの役割を担って頂いている。	キッチンでは野菜を刻む職員とゆで卵を剥く女性、食卓の準備を手慣れた様子でする利用者。昼食時には職員とゆったりと食事する光景・温泉談義も花を添えました。腕自慢の職員の料理を支える食材の買い物も入居者たちの楽しみの日課となっています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取が困難な方にはゼリー等で対応し個別に支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝食後、就寝前に口腔ケアをおこなっている。今後は毎食後となるようにしていきたい。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表により、排泄パターンを読み取り誘導することにより、自立に向けた支援を行っている。	一人ひとりの排泄の自立支援にむけて、職員がそれぞれに合ったきめ細かい支援や工夫等を話し合い、取り組んでいます。困難時は排泄委員会で検討し現場の支援に役立っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食物の工夫は行っているが、個々に応じた予防とまでは至っていない。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	お客様に希望を聞きながら、入浴していただいている。	明るく清潔な浴室には、毎日お風呂が用意され、入居者の希望やその日の体調に配慮しながら、ゆったりとした入浴を楽しんでいます。2日に1回を希望する方も居られます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調により、休息をとっていただいたり、寝具についてもなるべく気持ちよくなるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お客様ごとに処方箋及び、薬情報がわかるように管理している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	併設のデイサービスを積極的に利用し、外出企画や誕生日会等の企画も行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	なるべく外出ができるように支援をしているが、お客様の状況により偏りがある。	年間行事の遠足・花見などのお出かけと、近くの今宮公園の散歩。月2、3回ある車でのお出かけ支援の様子はリビングルームに掲示され、笑顔の写真は、ホームページでも見ることが出来ました。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時等では、本人の意思でお金を使う事はあるが、事業所では職員が保管している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	季節のお便りの支援はしているが、ご本人の意思で手紙や電話をする支援はできていない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活感や季節感を取り入れるようにしている。	1. 2階のユニット共に明るく広々とした居間兼食堂があり、見守り気配りに配慮された設計となっています。2階のバルコニーは車いすの方でも出入りでき、青空のもとでの外気浴の場としても有効的に活用されています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルやソファの配置を考慮し、工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人・ご家族が持ち込みたいものを持ち込んでいただくようにしている。模様替え等もいつでもご本人・ご家族主導で行なえるようにしている。	入居時に「ご本人の部屋」として居心地良く過ごせる支援を家族にも理解いただき、それぞれの部屋がその人らしく使い慣れた家具が置かれ 工夫されていました。エアコンとともに換気機能も設置されています。	大きな地震がある事を想定し、各居室の家具固定等の現状を把握し より安全になる為の取り組みに期待します。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	できる事はご自身でできるように支援している。		